関東部会の部会運営

埼玉大学　長田　健

関東部会は、東京を中心に大学・金融機関等が多く存在する地域をカバーしている為、日本金融学会の全８部会のうちで最も登録会員が多く、学会員の約 6 分の１が登録する部会である[a]。200 名超という登録者数からして、小規模な学会と同規模の組織だと言えよう。

日本金融学会の創立は 1943 年 6 月 17 日であるので、2013 年 6 月～2023 年 6 月の 10 年間の部会活動を記すべきなのかもしれないが、年度単位で活動する部会活動である為、ここでは 2013 年度から 2023 年度までの 11 年間について記すこととする。

後述するように、この 11 年間もまた、多くの登録会員の皆様に支えられながら運営・活動が行われてきた。僭越ながら、この期間の後半の運営に携わる機会を頂いた幸運な身としては、登録会員皆様のご期待に応えられるよう努めたつもりである。ここに備忘と自省も兼ねて、11 年間の関東部会の運営および活動状況について記していきたい。

１．運営体制

この 11 年間の運営体制は前半と後半で異なる。2013 年度から 2017 年度までの 5 年間は高橋豊治氏（中央大学）が幹事を務め、高橋氏を中心に中央大学商学部に所属する学会員が運営を行っていた。しかし、2018 年 5 月に「日本金融学会　部会内規」[b]が制定されたことに伴い、幹事 6 名体制に変更になる。幹事 6 名は、それまで関東部会の運営を担っていた中央大学から 2 名（奥山英司氏、高橋豊治氏）、それ以外の関東の大学・組織から 4 名（大野早苗氏［武蔵大学］、長田健［埼玉大学］，富田秀夫氏［トムソン・ロイター・ジャパン株式会社[c]］，柳瀬典由氏［東京理科大学[d]］）が選ばれた。移行年度だった 2018 年度は高橋氏が引き続き代表幹事を務めたが、2019 年度から 2023 年度の 5 年間は代表幹事：長田、会計担当幹事：高橋氏で運営を行った。

２．活動状況

---

[a] 日本金融学会 HP の会員検索によると、2024 年 1 月 25 日時点で 220 件の登録がある。北海道部会は 36 件、中部部会 74 件、関西部会 126 件、西日本部会 92 件、歴史部会 147 件、国際金融部会 187 件、中央銀行部会 205 件となっている。

[b] 「日本金融学会　部会内規」（2018 年 5 月 25 日 理事会承認、同年同月 26 日 総会承認）
第 4 条　（組織および運営）
1. 各部会には幹事（若干名）を置き、理事会の承認を得たうえで、部会の運営に当たる。
2. 幹事は互選により、代表幹事(1 名)および会計担当幹事(代表幹事以外から 1 名)を選出する。代表幹事の任期は 4 年とし、連続して 2 期を超える場合を除き、再選を妨げない。

[c] 2019 年 3 月よりリフィニティブ・ジャパン株式会社に社名変更。

[d] 2019 年 4 月より慶應義塾大学。

詳細な報告内容は学会 HP に譲り、ここではこの 11 年間の関東部会の活動の特徴を記したい。活動状況の特徴もまた運営体制と同様、中央大学商学部が運営を担っていた前半（2013～2018 年度）と、幹事 6 名体制となった後半（2019～2023 年度）では異なる（下表では前半と後半で色分けしている）。

前半は、下表にもある通りその殆どが中央大学で開催されている。2018 年に一橋大学で開催された部会は一橋大学ビジネススクールとの共催であったので、単独開催だった残り 10 回の部会は全て中央大学開催であった。企画から運営までを担って下さった中央大学所属の学会員の方々のご尽力には感謝しかない。また、前半の特徴として挙げられるのはシンポジウムへの共催・協賛である。中央大学や青山学院大学で開催されたシンポジウムに共催・協賛している。研究報告会だけでなく、シンポジウム等への参加の機会の提供は、中央大学の先生方の人脈等無くして成しえなかったと言っても過言ではないだろう。

幹事 6 名体制となった後半は、事業計画（毎年 7 月提出）にて、年 3 回開催スタイルに変更し、第 1 回を埼玉大学（担当：長田）、第 2 回をリフィニティブ・ジャパン株式会社（担当：富田氏）、第 3 回を慶應大学（担当：柳瀬氏）で開催する計画を立てた。そのなかでも特筆すべきは第 2 回だろう。東京・赤坂のリフィニティブ・ジャパン本社にて実務家による最新実務のトピックを聞く機会を得ている。2019・2022 年度と、これまで 2 回開催したが、実務家・研究者が会し議論を交わす貴重な機会だ。富田氏およびリフィニティブ・ジャパンの社員の方々のご尽力・ご協力に深く感謝したい。

新体制が始まった 2019 年度の第 3 回部会は残念ながら Covid-19 の為に延期となり、2020 年度第 1 回としてオンライン開催されている。2020・2021 年度はオンライン開催だったが、年 2 回の開催を継続できたのは偏に部会員の方々のご協力によるものである。2022 年度からは対面が復活し、新体制になってはじめて年 3 回開催スタイルで実施し終えることが出来た。今年度（2023 年度）は代表幹事の私がサバティカル中である為、他 5 名の幹事の方々には迷惑をかけたが、第 1 回は中央大学にて開催、第 2 回も慶應大学にて開催予定である。ここに感謝申し上げたい。

下表にもあるように関東部会の特徴は、大学院生への報告機会（およびネットワーキングの機会）の提供、実務家報告による産学融合の機会の提供であろう。私自身も学会デビューは 2007 年度の関東部会（中央大学後楽園キャンパス）であり、その後の研究者活動の礎になった。2024 年度から始まる次の 10 年、関東部会がどのように発展するか楽しみである。これからも関東部会に属する学会員の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思う。

年度	部会 開催回数	登壇者数 （うち院生、実務家）	部会開催場所	シンポジウム 共催等の回数
2013	1	2（1，0）	中央大学（駿河台）	0
2014	2	4（1，0）		1
2015	1	3（0，0）		0
2016	2	5（1，2）		0
2017	1	2（0，0）	中央大学（多摩）	0
2018	4	１３（0，0）	中央大学（駿河台、多摩） 一橋大学（千代田）	2
2019	2	6（2，4）	埼玉大学（神田） リフィニティブ・ジャパン	0
2020	2	6（0，2）	オンライン（慶應、埼玉）	0
2021	2	4（1，1）	オンライン（埼玉、慶應）	0
2022	3	7（0，4）	ハイブリッド（埼玉大学） リフィニティブ・ジャパン 慶應大学（三田）	0
2023	2	4（0，0）	中央大学（多摩） 慶應大学（三田）	0